

平成23年(2011年)12月4日(日曜日)

小中学生100人 バスケットで交流

伊豆

三島田方と福島・いわき市

NPO法人グラウンドワーク三島の東日本大震災支援活動で訪れている福島県いわき市の小中学生が3日、伊豆市の修善寺体育館などで、三島田方地区にある小中学校5校の児童生徒とバスケットボールで交流した。

「心を元気にするショートツアー」と名付けられた同活動は9回目。今回は、いわき市立植田東中男子バスケット部の14人、植田小ミニバスケットチームの22人と保護者11人の計47人が参加した。

伊豆市バスケット連盟(遠上文夫会長)の協力で、伊豆市立修善寺中、伊豆の国市立長岡中、三島市立北中の男子バスケット部員と伊豆市立修善寺小、伊豆の国市立韮山小の男女ミニバスケット部員計52人が、試合や練習で交流した。

修善寺体育館では、午前11時半から午後4時ごろまで、植田東中と地元中学3校が対戦を続け



気合の入った交流試合を展開する植田東中と長岡中の選手たち＝伊豆市の修善寺体育館

た。部員たちは真剣勝負で臨み、監督の厳しい声が飛ぶ気合の入った好試合が展開された。また、植田小は、修善寺小体育館で、地元の小学校2校と試合を行った。

遠上会長は「被災地では、グラウンドが被害に遭い、十分な練習ができないと聞いている。今日は思いっきり試合を楽しんでもらいたい」と話した。この日、いわき市の参加者たちは、伊豆市の日本競輪学校やサイクルスポーツセンター、温泉施設「百笑の湯」でも過ごし、心と体を癒やした。4日に帰省する。